

公益社団法人調布青年会議所 2020 年度 理事長所信

理事長 堀内信宏

2020 年度スローガン

威風堂々～感謝と覚悟～

現役シニアが誇れる調布青年会議所とする
市民に広く認知・信頼される調布青年会議所とする
市民に必要とされる調布青年会議所とする

【はじめに】

時あたかも、調布青年会議所は創立 50 周年を迎えんとしています。令和という新たな時代を迎えた今、私たち調布青年会議所の存在意義はどこにあるのでしょうか。

1970 年、「玉川にさらす手作りさらさらに・・・」と万葉の東歌にも歌われた武蔵野のいかく調布に、全国で 444 番目の青年会議所が誕生しました。それは、1964 年東京オリンピック開催、1968 年 GNP が世界第 2 位へ、そして 1970 年大阪万博の開催と、東洋の奇跡ともいわれた高度経済成長期の真ただ中のことでした。戦後荒廃の中、「新日本の再建は我々青年の仕事である」と高い志をもつ青年達のやむにやまれぬ情熱が生み出した青年会議所運動が実を結んでか、調布も時代の流れとともに年々発展を続け、明るい豊かな町づくりがなされている最中でした。しかし、このような中にも何か満たされぬものを感じた調布の青年が、共に語り喜び励ましあう共通の広場を求め、青年会議所運動と出会いました。そして、自らの手で歴史ある郷土調布を守り、発展させ、諸問題を解決し、明るく住みよい地域社会を建設するため、調布青年会議所を創立しました。

それから 50 年間もの長きに渡り、時代時代の社会問題に向き合い、様々な運動を展開し、多数の人財を地域社会へ輩出してきました。そして令和を迎えた今、果たして創始の目的を達成できているのでしょうか。

令和は万葉集よりの引用で、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ、という意味が込められているそうです。悠久の歴史と薫り高い文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へと引き継いでいく、厳しい寒さの後に春の訪れを告げ見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい、との願いを込められ、新しい時代の幕が開けました。

私は、その願いについて、当会議所の創始の想いを重ね合わせてまいります。

青年会議所は存続する限り永遠に若さを保ちます。調布青年会議所という人格が 50 年 100 年と歳を重ねていっても、それを構成する細胞は常に青年です。社会問題は時代時代で形を変え次々と目前に迫り、明るい豊かな社会という概念は時代と共に移ろい、細胞である会員は新陳代謝し十数年で全て入れ替わってしまうという、常に変化と隣り合わせの青年会議所において、変わらないものもあります。

変化の中の不変、ここに青年会議所運動の源泉があります。当会議所設立趣意書にある、明るい豊かな町づくりがなされている中でも、何か満たされぬものを感じ、次代を担うわれわれ青年が、という文節にあるように、青年は先人の創り上げた今にただ満足しているだけでなく、時代の変化とともに移ろう価値観や社会問題に常に向き合い、現状維持を大きな退歩と考え、自ら課題を見つけ、明るい豊かな未来へ向かって進み続けなければなりません。

若さや青年という言葉には、未熟、挑戦、行動、変革という言葉が似合います。当会議所は、調布の青年の代表として、その存在を誇り、いつの時代でも常に問題意識を持ち、変革のために行動しつづけます。青年が問題意識を持ち、地域を、国を、世界を良くするために行動し続ける状態こそが明るい豊かな社会そのものなのです。よって我々の運動に終わりはありません。

【JAYCEE として】

青年会議所では 2000 年代前半に社会起業家という概念が示されました。それは、JC しかない時代から JC もある時代と言われるようになり、その存在感が徐々に小さくなっていく中で、市民団体の道に進むべきか、あるいは青年経済人の色を濃くした経済団体の道を選択するのか、との模索の末に辿り着いた第 3 の道でした。市民団体でも単なる経済団体でもない、営利非営利を問わず自由闊達に社会的価値のあることを創造、実践していく「人間力あふれる社会起業家の育成」を青年会議所の進む道としたのです。

例会や事業、会議を離れたところで会員同士が JC 論議に花を咲かせると、JC とは自己研鑽の場であり、そこで学んだ事業構築手法や得た仲間をもって卒業後に地域のリーダーとしてまちづくりに貢献するのだ、との考え方と、公益目的事業の開催こそが調布青年会議所の存在意義であり、今まさに目の前にある社会問題を解決することにこそ全力を注ぐべきである、との考え方が度々ぶつかります。これは、単年度制かつ 40 歳定年制である JC だからこそ多く交わされる議論でありましょう。他の地域団体と比較して、目的は漠然とし背景は曖昧で、かつ在籍期間が短期であるが故、我々 JAYCEE は常に自問自答しています。

その答えは第3の道にあるのでしょうか。青年会議所は自らを写す鏡です。JCに真剣に向き合い続けると、最後に出会うのは自分自身です。時代や立場でカタチを変える明るい豊かな社会を追い求め続けるためには、JAYCEE 一人一人が人間力あふれる社会起業家として自立していかなければなりません。

【調布青年会議所 2020】

当会議所は2020年度、創立50周年を迎えます。この50年は先人の歩みそのものです。我々が行政や地域からご支援・応援をいただき活動できているのも、先人達の積み重ねの賜物に他なりません。今ある環境を当然の権利であると慢心せず、謙虚に感謝を重ね、未来へ繋げます。2020年度は過去の延長の1年としてはならず、温故知新、当会議所の歩みを振り返り、新しい次なる50年の第一歩とします。そして、そのあすの調布への第一歩を確かなものとするために、中長期ビジョンを制定いたします。広く信頼される調布青年会議所とし、創立100周年までの運動を加速させます。

そして本年度は、年願成就、第49回東京ブロック大会調布大会を主管します。近年の東京ブロック大会は、東京ブロック協議会の最大の運動発信の場とするだけに留まらず、主催者益・主管益・地域益・参加者益の4益を創出し、協議会と主管会議所がwin-winの関係となるよう事業を構築しています。当会議所は、協議会側のご厚意に甘えて、本大会を市内における当会議所の認知度向上のまたとない機会と位置付けます。認知度が上がり、当会議所の運動に対しより多くの市民に共感をいただけるようになれば、時を超えて協議会へ恩返しできるものと確信します。

更に、7月から9月にかけて、市内にても東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。開催期間中は日本各地や世界各国よりの来訪者が多数見込まれます。当会議所では、この東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、昨年度まで数々の事業を開催してまいりました。2020年度では、会員がJC運動で培った地域人としてのリーダーシップをそれぞれ存分に発揮し、おもてなしの精神をもって、個々の能動的な活動により、オリンピズムのゴールである平和でよりよい世界の実現に貢献します。

【まちづくり（社会開発）】

わが町調布は、交通の利便・自然・文化・スポーツを地域資源として保有する、とても恵まれた環境にあります。また、調布市の将来人口推計を見ると、基本推計で総人口が2028年、年少人口が2025年まで人口増の見通しとなっており、2008年をピークに総人口が減少局面に転じた日本国内にあって、20年間もの時間的猶予があったこととなります。とはいえ、日本国において少子高齢化の抜本的な解決策を講じられていない状況下、今後も人口減少が続くことは火を見るよりも明らかです。地方創生という理想を抱きつつも、人口減少

時代において、インフラや社会保障、行政サービスを維持するためには人口を大都市へ集中させるしかない、という論調も根強くあります。あるいは、政策として人口集中させなくとも、利便性に重きを置く現代人は自発的に都心部を目指すでしょう。果たしてわが町調布は、未来でも住みたい街であり続けられるのでしょうか。あるいは、SF 小説にあるような上へ上へと伸びる未来都市が湾岸エリアにできてしまい、人口流出に苦しむ調布となってしまうのでしょうか。

青年会議所では、まちづくりを単なる空間の創造や機構の設立だけではなく、社会・経済・文化・環境といった生活の根に繋がるものを構成するあらゆるファクターをも含めたまちの住民の暮らしそのものの創造である、と定義しています。そしてその中心にいるのは常に市民であるべきとしています。調布が未来にわたって輝きつづけるためには、我々JAYCEEが、市民の力を活性化できるよう、まちづくりを牽引出来る人財となっていかなければなりません。

当会議所は、調布市商工会青年部と長年にわたり建設的な関係が継続しており、「地域振興のための新しいまちづくり」について毎年指導いただいております。ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピックという、ここ数年の調布にとって大きなターゲットであった 2 大イベントのその先のまちづくりを、調布市商工会青年部の皆様と共に語り合いたい。

先人からバトンを受けた私たちが、地域の仲間と力を合わせ、自らの手で歴史ある郷土調布を守り、発展させ、諸問題を解決し、明るく住みよい地域社会の建設しようではありませんか。

【ひとづくり（指導力開発・青少年健全育成）】

今我々が生きている日本では、義務を果たす前に権利を主張する人たち、本当は弱者ではないのに自分は弱者であると強く主張し、それを笠に不当利得を貪る人達、自分の利潤のみを追求し他人を思い遣れない人達、そのような人達が少しずつ増えていると感じます。このような状態が続くと国家は弱体化し、自分達の生活はもとより、本当に困っている真の弱者を守ることもできません。

我々JAYCEEは、自らの意思をもって計画し、全力で実践し、真剣に学び、新たな計画を立て、それを繰り返します。自分たちの信じる道を突き進むことによって、自分の大切にす地域、日本という国、そして地域やその国に住んでいる家族・友達・国民全てを守るべく運動しています。私は、先人や仲間の、その公に捧げる強いエネルギーに感銘を受けてきました。どんな困難が訪れようと、決して諦めず、言い訳せず、自らを高めることによってその壁を乗り越えようという強い意志をもったリーダーに。

未来を創るのはひとであり、歴史も今を創ったのもひとであります。物質的に豊かな世界に身を置くと、つい目先のモノやカネに目が行きがちになりますが、ひとこそが地域の国の財産です。成長した私たち一人一人が社会資源となり、明るい豊かな社会実現へ向けての原

動力となります。

そして、子供たちには良くも悪くも未来を変える力があります。日本で生まれ育った人は、礼儀正しく清潔で道徳心があり、他人への思いやりと心遣いがあると言われます。しかし、それらは法定されておらず指針があるわけでもないため、子供たちに押し付けることはできず、共感・共鳴してもらうしかありません。郷土愛も同様です。本年度は、市内にても東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催されます。調布の子供たちは、オリンピズムをより身近に感じるにより、自己ベストやフェアプレーの精神、違いを認め合い受け入れられる広い心を育み、また、わが町調布を誇ることでしょう。当会議所では、そんな未来を担う世代に対し、上からでなく同じ目線に立ち、やりたいことをどうすれば実現できるかを共に考え、共感を生むとともに、子供たちの未来への可能性を拓けます。

【会員拡大・会員開発】

私が入会した 2009 年度には日本 JC の会員数が約 40,000 人と言われていました。ところが現在では会員数 33,000 人程度となり 20%弱も減少しています。当会議所でも一時は 100 人以上いた正会員が、ここ数年は 40~60 人程度で推移しています。なぜこんなにも会員が減ってしまったのでしょうか。なぜ退会者が多いのでしょうか。その理由として様々な声が聞こえてきます。

JC しかない時代から JC もある時代になったから。SNS の普及により、わざわざ時間を割いて相集う必要がなくなったから。権利を強く意識する時代において、奉仕・修練・友情なんて時代錯誤と考える人が増えたから。業務が膨大・煩雑かつ声を掛けられやすい人に集中し、責任感の強い人ほど嫌になってしまうから。JC 内で善悪を測る物差しが男社会のそれであり昭和から抜け出せていないから。

私自身、十余年の JC ライフにおいて、「正直者が馬鹿を見る」というフレーズが何十回頭を過ったかわかりません。その度に JC と距離を置きたくなりました。距離感さえ間違えなければ自分は傷つかないから。でもある時気づきました、これは自分だけの問題ではないと。ましてや JC だけの問題でもない。JC は社会の縮図であり、JC から距離を置いたところで何も変わらないと。青年会議所を変えられなければ社会も変えられない。正直者が馬鹿を見ない社会を創りたい。

私は、会員減少の原因を、自分達自身が JC を信頼できていないからであると考えています。社会的背景のある成人の集まりですから、その場をやり過ごすことに長け、多くの会員が卒業まで辿り着きます。しかし、卒業後、周りの人に JC を勧めてくださる先輩は少数です。ましてや、自分の子供や後輩を JC 入会へ導いてくださる方は本当にごく僅かです。

メンバーに聞きたい。調布 JC を好きですか。属していることに誇りを持っていますか。先輩に聞きたい。今の調布 JC に愛着をもっていますか。自身の子供や後輩に入会を勧められますか。市民に聞きたい。我々を品格ある団体だと思えますか。調布に必要ですか。

2020 年度もメンバー全員で会員拡大に取り組みます。ただ、全員拡大とは、メンバー全

員で候補者を発掘・声掛けするということだけに留まりません。仲間や先輩、市民が我々の生活態度までを見ても、尚、当会議所を応援していただけるよう、日頃より品格を持って行動します。

【おわりに】

青年会議所は主に会員の年会費で運営されており、よって事業内容の自由度はとても高く、既成概念に囚われない新たな挑戦がしやすい環境にあります。我々、調布青年会議所 2020 年度は、創立 50 周年・第 49 回東京ブロック大会調布大会主管・東京 2020 オリンピック・パラリンピック市内開催という恵まれた環境にありながらも、失敗を恐れず、果敢にチャレンジし、市内に新たな価値を創造します。

一方で、組織・団体として長期的に理念を追求し続けるためには、コンプライアンスやガバナンスがとても大切です。また、作法やマナーのように、一見意味の無いように見える一つ一つの手順・手続きに、実は真の価値があります。独善的にならず、内外から信頼される調布青年会議所へと成長します。

過去への感謝、未来への覚悟、その真っただ中にある調布青年会議所創立 50 周年を、今一度背筋を伸ばし、威風堂々、進みます。